

都市再生整備計画(第5回変更)

かたやまづ おんせん
片山津温泉地区

いしかわ かがし
石川県 加賀市

令和4年2月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	■
都市再生整備計画事業	□
まちなかウォークブル推進事業	□

目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	石川県	市町村名	かがし 加賀市	地区名	かたやまづ おんせんちく 片山津温泉地区	面積	41	ha							
計画期間	平成	29	年度	～	令和	3	年度	交付期間	平成	29	年度	～	令和	3	年度

目標

【大目標】 柴山潟の自然景観を活かした温泉街と水辺と歴史を巡る回遊ルートの創出

- 目標1: 白山眺望景観と水辺の自然空間を活かしたまちづくり
- 目標2: 湖畔とつながるまち歩きが楽しめる温泉街の魅力づくり
- 目標3: 外国人観光客が自然と温泉を楽しめるまちづくり

目標設定の根拠

都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針)を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。
本市では、北陸新幹線金沢・敦賀間の整備や国道8号の4車線化拡幅事業など交通インフラ整備が進められている。一方で人口減少や少子高齢化が進行する中、都市インフラの老朽化が大きな課題となりつつある。本市は、数度の市町村合併により、市街地が分散した多極分散型の都市構造となっている。各市街地において人口減少が進む中、加賀温泉駅を中心とした作見地域では、加賀市医療センターの開院や新幹線駅の整備が進むなど、人が集まる地域として市街化が進んでいることから、本市の中心に位置するこの地域を拠点とし、各市街地をつなぐ利便性の高い公共交通の充実を図るものとする。また、その他の市街地では、既存の生活利便施設や公共施設の維持と新たな施設の誘導を図り、生活利便性が高く、住みやすいまちの形成を進め、居住を誘導するものとする。

まちづくりの経緯及び現況

片山津温泉地区は、優れた眺望景観を有する柴山潟湖畔に広がる温泉街である。市街地は、柴山潟湖畔から大型観光旅館の建ち並ぶ温泉街、そして商店街、住宅地の順に形成されている。観光地として発展してきた本地区であるが、消費者ニーズや旅行形態の変化、長引く景気低迷などの中において観光客数は、昭和55年の1,514千人をピークに平成19年には322千人(▲1,192千人、▲79%)にまで減少し、現在営業している旅館数(H29年3月:11館)は全盛期の1/3以下になっている。
平成14年度から平成18年度のまちづくり総合支援事業(片山津地区)及び平成19年度から平成23年度の都市再生整備事業(片山津地区)では、総湯、広場、足湯、遊歩道、散策路小路や街路の整備などに取り組み、温泉街の魅力向上が図られていた。近年、片山津温泉の観光入込み客数は、概ね500千人超で推移していたが、H27.3の北陸新幹線金沢開業により、H27年度は620千人に増加している。また台湾・シンガポール等との積極的な海外交流によるインバウンド観光の推進により、平成28年度の外国人観光客数は18千人となり、毎年着実に増加している。北陸新幹線金沢開業効果を持続させるとともに、令和4年度末の北陸新幹線敦賀延伸開業時に向けて、片山津温泉の魅力向上による更なる賑わい創出が必要である。
このため、地域住民のほか、旅館事業者や地元観光協会が主体となったまちづくりを推進し、温泉街と湖畔をつなぎ、地域資源である柴山潟の自然景観を活かした水辺の回遊ルートの確立と、来訪者の駐車場不足や外国人にも対応したまち中の散策環境の向上が求められている。

課題

- ・白山連峰の眺望や柴山潟湖畔など優れた眺望景観を有しているが、柴山潟湖畔に温泉旅館が建ち並んでいるため、市街地から潟を望むことが出来ず、湖畔の温泉地として地域資源が活かされていない。
- ・柴山潟の水辺空間を重要な観光資源ととらえ、湖畔と湖上と温泉街をつなぎ、まち歩きが楽しめる湖岸の周遊ルートと、来訪者のための観光駐車場が必要である。
- ・インバウンド観光の推進により、外国人観光客は増加傾向にあるが、外国人のまち歩きに対応した回遊環境の整備がされていない。

将来ビジョン(中長期)

・加賀市観光戦略プランでは、市内の山代・山中・片山津の3温泉地の魅力を高め賑わいを創出するため、個性を生かした温泉街の魅力づくりを進めるとしており、その中で、片山津温泉は温泉街の賑わい創出のため、柴山潟の湖畔・湖上と温泉街をつなぎ、一体的に街歩きが楽しめる温泉街の魅力づくりを目指している。

都市構造再編集中支援事業の計画 ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。

都市機能配置の考え方

温泉街の散策ルートを確認するため、温泉街と地域資源を結ぶ散策ネットワークの充実を図る。
温泉街中心部においてまちなか周遊拠点としての機能強化を図る。

都市再生整備計画の目標を達成するうえで必要な誘導施設の考え方

地区の優れた景観資源の活用と、湖畔と温泉街を巡る散策ルートの確立のため、湖岸に遊歩道を整備する。
片山津温泉地区の誘導施設である総湯は、地元住民と観光客の交流の場となる拠点施設であることから、その隣接地に来訪者のための観光駐車場を整備し、散策拠点としての機能を強化する。
増加する外国人観光客がまち歩きを楽しめるよう、散策ルート上に外国人に対応した外国語表記の情報案内サインを整備する。

都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等

目標を定量化する指標

指標	単位	定義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値		
				基準年度	目標年度	目標年度	目標年度
片山津温泉外国人観光客数	人／年	片山津温泉の宿泊施設を利用する年間外国人観光客数	自然を活かし、外国語表記を充実して、外国人観光客が自然と温泉を楽しめるまちづくり(目標3)により、外国人観光客を増加させる。	18,161人	20,000人	H28	R3
雪の科学館入館者数	人／年	中谷宇吉郎雪の科学館の年間入館者数	湖畔とつながるまち歩きを楽しめる温泉街の魅力づくり(目標2)により、回遊性を向上させ、雪の科学館の入館者の減少傾向を食い止める。	25,852人	26,000人	H28	R3
遊歩道通行者数	人／10h	湖岸遊歩道(浮御堂入口)の平日10時間(9:00~19:00)の歩行者数	白山眺望景観と水辺の自然空間を活かしたまちづくり(目標1)と湖畔とつながるまち歩きを楽しめる温泉街の魅力づくり(目標2)により、観光客のまち歩き周遊を増加させる。	197人	300人	H28	R3

整備方針等

様式(1)-③

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1：白山景観と水辺の自然空間を活かしたまちづくり ・柴山潟からの白山眺望や水辺空間などの優れた景観資源を活かし、湖岸に遊歩道を整備する。</p>	<p>遊歩道整備（基幹事業：高質空間形成施設）</p>
<p>整備方針2：湖畔と温泉街をつなぎ、まち歩きが楽しめる温泉街の魅力づくり ・湖岸の堤防を活用し、湖畔・湖上と温泉街を巡るルートを確立するため、湖岸遊歩道を整備し、散策拠点となる来訪者のための観光駐車場を整備する。</p>	<p>遊歩道整備（基幹事業：高質空間形成施設） 駐車場整備（基幹事業：地域生活基盤施設）</p>
<p>整備方針3：外国人観光客が自然と温泉巡りが楽しめるまちづくり ・温泉街の周遊散策ルート上に、外国人に対応した外国語表記の情報案内サインを整備する。</p>	<p>情報板整備（基幹事業：地域生活基盤施設）</p>
<p>その他</p>	
<p>● 上位計画：加賀市都市計画マスタープラン（平成23年4月）</p> <p>【将来都市像】「みんなでつくる 人にやさしい かがやく地域」 ～温泉、自然、歴史文化を活かし 協働で歩む 安心して暮らせるまちづくり～</p> <p>【片山津地域の将来都市像】「温泉と柴山潟や歴史文化資産の恵みを活かした観光地」</p> <p>「柴山潟を活かした周遊できる潤いのあるまち」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・柴山潟の自然環境を活かし、遊歩道などによる周遊性の確保や親水空間の充実により、潤いのある湖畔づくりをめざします。 ・柴山潟周辺からの眺望景観を保全するとともに、まちなかでは住民と商店街・宿泊施設及び企業が協力し、魅力的なまちなみづくりをめざします。 <p>● 湖岸の活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、湖岸遊歩道の活用促進と湖畔の一体的な景観づくりを推進するため、旅館など沿線関係者や地元観光協会等で組織する「柴山潟湖畔遊歩道計画連絡調整会議」を立ち上げて、地元が主体的に取り組んでいる。 	

片山津温泉地区（石川県加賀市）整備方針概要図（都市構造再編集中支援事業）

目標	柴山潟の自然景観を活かした温泉街と水辺と歴史を巡る回遊ルート創出	代表的な指標	片山津温泉外国人観光客数（人／年）	18,161（H28年度）	→	20,000（R3年度）
			雪の科学館入館者数（人／年）	25,852（H28年度）	→	26,000（R3年度）
			遊歩道通行者数（人／10h）	197（H28年度）	→	300（R3年度）

